



With You

+ プラス



社会福祉法人三幸会
広報推進プロジェクト

三幸会だより

2019年1月14日 特別号

三幸会では、新しく「ICT推進プロジェクト」を設立
介護現場を変えるICT機器の導入を目指しています！

介護 × ICT

特別養護老人ホーム 三幸の園



パソコンより簡単。紙より便利。 記録時間を短縮し、ケアの充実

三幸の園では、介護記録において、ケア記録支援ソフトを導入しています。しかし、記録の入力にはパソコンの使用が必須。業務の中で、ご利用者から離れ、記録を管理する事が介護職員の負担となっていました。

職員の負担軽減、ケアの充実を目的にタブレットの導入を決定、介護現場での使用を始めました。最初は、慣れない事もあり、使用方法を覚える事だけで時間が掛かっていましたが、導入開始から一年。今ではご利用者と一緒に話をしながら、手元で記録管理。簡単な作業で負担も軽減。ご利用者と過ごす時間も増え、ケアの充実を実感しています。

介護記録支援タブレット導入

小林直紀さん 介護職員 入職4年目
介護現場で、スキマの時間をうまく活用し記録管理。タブレットによる事務作業の省力化を実現しています。

タブレット導入による効果

①記録業務の手間やストレスが軽減

入力がタッチ操作で簡単、ご利用者のケアをしながら記録管理ができる

②その場で確認、伝える事ができる

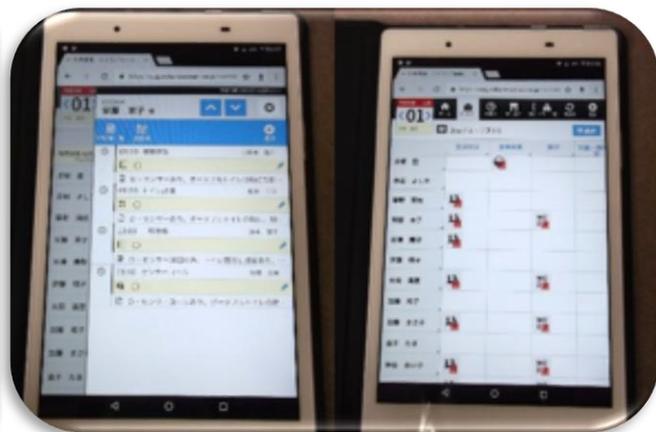
過去の記録をその場で確認。職員同士で情報の共有がすぐにできる。タブレットで撮影した画像をそのまま取り込めるので、情報を把握しやすい

③記録時間の短縮

タブレットのみで記録業務が完結。パソコンへの転記や二度手間がなくなり、時間の短縮が実現

④ご利用者の満足度向上

ご利用者との時間が増え、情報もすぐに共有出来る為、ケアが充実



導入には、明確な目的が不可欠！ 今後の方向性を見据える取り組み



タブレット片手に記録業務やご利用者とのレクリエーションをおこなっている職員の姿が見られます。現場では、今何が必要なのか？今後何が問題となるのか？まずは、問題の把握が必要です。タブレット導入に関しても、導入がゴールではありません。常に職員による業務改善が必要です。一つずつ丁寧に解決し、新しい取り組みを実行していく姿勢が大切だと考えています。

今後の課題



特別養護老人ホーム 山崎園

移乗介助用リフト導入。 さまざまな負担を軽減、楽な介護へ

山崎園では、移乗介助用リフトを導入しています。導入の目的は、職員の負担軽減とご利用者の安全安心確保です。

世間では、介護職員の「腰痛」が問題視されています。職員から腰痛の不安を取り除き、より質の高い介護の提供を目指し導入を決定しました。導入のメリットは、職員だけではなく、ご利用者の安全性にもあります。職員が抱える介護では、人間的なミスによる事故も起きる可能性があります。リフトを使用する事により、安全安心が確保されました。

関わる全員が笑顔に。介護者がゆとりある心を持って、ご利用者の安心・安全に配慮しながら介護を行うことができます。



移乗介助用リフト（床走行可）

使用方法は、至ってシンプル。シートをハンガーにひっかけて持ち上げて使用します。また、そのまま移動が可能です。特に施設や病院での使用に適しているタイプです。

移乗介助用リフト導入



ノーリフトケアとは、**人力だけで要介護者を持ち上げない、抱えあげない介護のこと**です。介護者の腰痛を防止するのはもちろん、持ち上げたり抱えあげたりする移乗にともなう要介護者の皮膚の損傷や不快感の軽減にもつながります。ノーリフトケア先進国であるイギリスやオーストラリアではすでにその成果が報告されており、日本でも少しずつ注目を集めています。

リフト導入によるメリット

- ①職員の腰痛、肩こりが起きにくくなった
- ②安全性が高まり、事故防止に繋がった
- ③職員の能力に関係なく、同じ質のサービスが提供できた
- ④力作業が軽減され、雇用の幅が広がった。

松井辰彦さん 介護職員 入職7年目
肉体的負担も多い移乗介助ですが、リフト導入後は一人でも安全に介助する事が可能になり、腰痛改善にも繋がっています。

抱えない介護「ノーリフトケア」

これからの介護現場 介護機器導入と職員教育・育成

介護の現場では、リフト使用は、職員が抱える介護よりも時間がかかり、腰痛予防や安全性を理解していても時間的余裕がない時は、抱える介護を選んでしまっていました。その負担解消となる介護機器が、実際には上手に活用できていない現状がありました。

しかし、職員同士で話し合い、勉強会を開き、ICTについて正しく理解する事で、介護機器の活用が理解されたと考えています。

今後もICTに関して正しい理解が得られるよう職員教育の継続も必要だと強く感じています。



今後の課題

